

## はじめに

本章では、宮城県仙台市、栃木県宇都宮市、北海道夕張郡由仁町、青森県青森市、栃木県佐野市・藤岡町を対象都市として、それぞれの視点から各都市のまちづくりについて論じていく。調査・研究にあたっては文献からの引用等のみならず、実際に現地に足を運び資料を収集することで、各都市の現状について独自の視点から考察している。

まず第一節では仙台市の外国人増加に伴う変化について取り上げる。現在アジア系やラテン系外国人が増加している仙台市に焦点を当て、身近な場所の外国語表記の現状について調査、考察している。

第二節では宇都宮市のゆるキャラを使ったまちおこしについて述べる。ゆるキャラを使うことで地域振興に結び付いているのか分析し、町おこしという視点での今後の宇都宮市とゆるキャラとの関わり方について考察する。

第三節では由仁町の祭りが地域社会に与える影響について述べていく。その祭りがどういった側面で地域社会の中でどのような役割を果たしているのかについて指摘し、祭りの存続のためにすべきことについて考察する。

第四節では青森市にある商店街について取り上げる。現在、その商店街に携わる住民らは官民一体となって商店街の活性化に取り組んでいる。その活動の考察を通して、商店街の復活のために取り組むべきことを指摘する。

第五節では藤岡町の商店街と佐野市の大型ショッピングモールについて焦点を当てる。商店街と大型店舗との現在の関係性について調査し、双方が共存してくためにその地域や商店街がすべきことについて述べる。

このようにそれぞれの節で対象となる都市や施策提言等は異なっているが、地域の現状に合わせたまちづくりについて考察している点は共通している。ぜひ、皆さんにとって身近な地域が類似した課題を抱えていないかどうかを考えながらお読みいただきたい。